

第78回 令和7年9月5日（金）

人間の感覚について。

ヒトが短時間とりあえず生きていける温度は-50度から50度までと言われています。もちろん長期となれば凍傷などの身体の変化や食料などの問題もあるのでこれよりも狭くなります。

気温は年々上がっています。考えてみれば学者の予測が必ずしも正しいわけではありませんから来年は世界のどこかで長期にわたり50度近くになることもあります。砂漠などの乾燥地帯では珍しくない気温かもしれません、高温多湿の日本のような国では大変なことになるでしょう。

このような酷暑が続くと、最高気温が30度の真夏日でも不思議と救われる気がします。人間の感覚はいい加減なもので、25度の夏日は春先だとウンザリしますが夏の終わりなら「今の季節が一番いい」と思ってしまいます。

昔なら真夏日が続くとゲンナリしたものですが、いずれ40度が当たり前になると35度が許せるようになるかもしれません。30年前は「熱中症」などは聞いたことがなくて、暑い日には「日射病」になるから帽子をかぶるように言われました。いまは日傘が必須アイテムです。

人間は「慣れる」という特殊技能があるので、来年さらに暑い夏が来ても今年より猛暑日が少なければ「今年はマシだ」と思えるかもしれません。しかし残念ながらここ3年くらいは1年ごとに暑さがパワーアップしているので「マシ」の要素を見つけることができません。

「あるガラス瓶があって、そのなかに1分で2倍になる菌が入っています。菌がガラス瓶にいっぱいになるには60分かかります。それではガラス瓶の半分が満たされるのには何分かかりますか？」よくある思考問題です。

答えは59分。半分が満タンになるまでには1分しかかかるないということです。この暑さが人類の限界を超えるのは1年に1度ずつ暑くなつて20年後くらいかなと思うかもしれません、実はすでにかけっぷちにたたされているのかもしれません。来年急に50度がチラホラみられる可能性だってあるのです。

地球温暖化を止めるには数年、もしくは数十年かかります。今年二酸化炭素を減らせば来年は涼しくなるというわけにはいきません。2030年までに温室効果ガスをどのくらいにするか、各国が話し合い京都議定書やパリ協定が結ばれていますが、これが間に合う保証はどこにもありません。今できることは「すぐに対策をうつこと」、オンリーワンだと思います。